

第151回国際研修「実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇」

国連アジア極東犯罪防止研修所教官 角田 亮

実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇は、欧米諸国はもちろん、アジアの諸国（地域）においても、矯正（保護）行政に大きな影響を与えており、日本でもこのような取組が始まっています。しかし、このような処遇を実践するためには、犯罪者のリスクアセスメントや効果的な処遇（プログラム）の条件等について十分に理解することが必要ですし、各国の実情に応じて、解決すべき課題もあります。そこで、本研修では、専門家による講義や研修参加者による対話・討議等を通じて、「実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇」について学び、理解を深めるとともに、これを実践する上での課題やその解決策についてアイデアを共有することを主な目的としました。

まず、今回のテーマは比較的新しい考え方である上、専門的な知識が必要なことから、海外からの客員専門家の講義に通例の1.5倍の時間を確保し、グループワークの中でも講師から学んだことを再確認するよう研修参加者に促すという、従来とは違った取組を行いました。実際に、グループワークにおいて参加者同士が理解を確認し合い、教官からも補足的な解説をしていく中で、参加者の理解が深まっていった面がありました。必要な知識のほとんどは海外からの客員専門家の講義から得ることができたと考えています。

客員専門家の講義は、いずれも素晴らしいものでしたが、紙面の関係もありますので、特に印象に残った、ごく一部のシーンを紹介します。講義の概要はリソースマテリアルに掲載される予定ですので、詳しくはそちらを御覧ください。

モティアク博士は、講義の冒頭で「犯罪行動を説明する理論にはいろいろあるが、実証的エビデンスによって支えられていなければ矯正のマネジメントに取り入れることはできない。なぜならば、それは犯罪行為を説明し、予測し、減少させることのできるものでなければならぬからである。その条件を満たすのが、『犯罪行動は、他の行動と同じく学習されたものであり、重要な個人要因と置かれた状況との相互作用から生じる。』と考える社会的学習理論であり、これがカナダにおける犯罪者処遇の枠組みとなっている。」と述べ、「実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇」という考え方の理論的基礎を鮮やかに説明されました。

米国のラテッサ博士は、過去に米国のある州で行われた矯正処遇が、低リスクの犯罪者（再犯の可能性が少ないと評価された犯罪者）にとっては再犯を増やす結果にな

っていたという研究結果を示し、処遇プログラムの対象者は高リスクの犯罪者とすべきであると強く主張されました。また、再犯減少に効果がある処遇プログラムの条件や処遇者の面接の在り方、そして、特定の処遇プログラムがそれらの条件を満たしている程度を測定するツールや再犯防止に効果がある面接の訓練方法について言及されました。その内容は、具体的、かつ、多数のプログラムの検討・分析を踏まえたものであり、米国では、実証的根拠に基づいた処遇という考え方が相当程度に浸透していることがうかがわれました。

シンガポールのレオ氏は、シンガポール行刑局が実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇を導入した経緯に触れる中で、当時の局長の写真をスライドで写しながら、その局長の問題意識と決断が導入の発端であり、その強いリーダーシップのもと、組織改変や職員の意識改革を行って体制を整えていったことを熱い口調で話されました。

次に、グループワークでは、研修参加者は2つのグループに分かれ、それぞれが「犯罪者のリスク・ニーズアセスメント」又は「実証的根拠に基づいた犯罪者処遇プログラム」というテーマで討議しました。研修参加者は、いずれも熱心にグループ討議に参加し、必要に応じた法令等の改正、実施体制を整えるための組織改変、職員に知識やスキルを身に付けさせるための研修、予算獲得に向けた財務当局に対する費用対効果の説明、技術支援等を得るための他国との連携、専門知識を有する職員の採用又は育成、職員間のコミュニケーションの促進、職員サポート体制の構築、科学的なツールの活用、プログラムの実施マニュアルの作成、プログラムの実施モニタリングシステムの構築、世論の支持を得るための啓発活動、犯罪者情報共有システムの構築の必要性等を提言しました。また、コロンビア、ケニア、ヨルダン、モルディブ、フィリピン、サモア、タイ、バヌアツ、香港、韓国、日本が、リスク・ニーズアセスメントツールを活用又は開発しているといった情報を共有することができました。

海外参加者からは、研修の主要テーマについて、「研修に参加する前は意味を誤解していたが、今ははっきりと理解した」、「プログラムの評価方法について新しい考えを得られたので、自国に持ち帰って必要な解決策を提言したい」などといった前向きな感想が見られる一方、「実現するには多くの困難があり、道のりは長い」といった感想も見られました。主任教官としては、今回の研修が各国の犯罪者処遇の発展に少しでも役立ってくれればと願っています。

最後になりましたが、お忙しい中、本研修の実施に御協力をいただきました各関係機関、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。